

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成24年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から1年が経過し、個々の能力も上がりが仕事に余裕が出来てきたことでいろんなところにも目が行くようになりきめ細かい介護が出来るようになってきている。
入所者との時間も上手に取れるようになり、交流の時間も増え入所者の個々の力を引き出す機会も増えてきます。 理念の下、笑顔があふれや笑い声が響くホームになってきています。
地域の方との交流の機会を、今年は夏祭りの招待と言う形でとりたくさんの方に来ていただき解っていただける機会になったと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた山間部に位置しており、季節を感じながら穏やかに過ごすことができている。リビングは日当たりがよく、季節に応じた工夫で快適に過ごす事ができ、利用者の憩いの場となっている。
職員は家庭的な雰囲気の中で自分らしく笑顔で過ごす事ができるように、温かいもう一つの家族となれるようにと、理念を掲げ支援に努めている。利用者が落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりと過ごすことができるよう日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 紅葉の里・おだ

(ユニット名) いちよう

記入者(管理者)

氏名 杉野 千鶴子

評価完了日 24 年 1 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 入社時の研修で必ず理念について話し、事務所内にも掲示することで全員の意識を統一している。 来所者にも問い事業所の理念をわかっていただくためにも、玄関にも理念を掲示することで自分たちに意識もあげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い作成した理念は、事務所や玄関に掲示して家族や来訪者も共有できるようにしている。職員は出勤時に各自で確認し、新任職員には研修で説明を行い実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所を知ってもらうためにも地域の行事（クリーンデー・防災訓練等）には積極的に参加してきた。今年も、夏祭りを通して地域の方にもたくさん参加してもらった。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議や事業所の行事に参加してもらったり、月1回読み聞かせの会のボランティアの方に歌や紙芝居してもらっている。町全体の防災訓練や会議に参加したりクリーンデーにゴミ拾いを行う等、地域との交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 内子町グループホーム全体で認知症への理解、グループホームへ理解を深めてもらうため研修会等を開いて地域の方々の参加を広く求めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的に会議を設け、現状及び運営等に関し問題を話し合える場を設けているが、まだまだ上手く会議をもていないようで意見が出ないこともある。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族や地域住民、町職員の参加を得て開催している。消防訓練や行事に合わせて行っている。事業所の状況報告や意見交換等を行っているが、行事以外での参加者が固定化されており積極的な意見交換までには至っていない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃より、運営やサービスに対し相談アドバイスを得ることが出来る。運営推進会議には必ず出席していただき意見交換ができています。</p> <p>(外部評価) 町の担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっている。また、町の防災訓練や会議にも参加するなど良好な関係が構築されており、事業所の現状を報告したり、困難事例を相談することができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) スタッフは外部研修にも参加し、全員が身体拘束をしないために勉強会を行い、同じ意識の元援助行っている。</p> <p>(外部評価) 年1回、外部研修に各ユニットから1名参加し、事業所内で伝達研修を行っており、全職員が正しく理解し実践している。外出を希望する利用者には見守りを行い、時には一緒に歩き、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフは外部研修にも参加し虐待防止について、年間の職員勉強会に組んでおり常日頃から職員同士でも話し合いサービスについて話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について、年間の職員勉強会に組んで職員全体で理解していけるようにしている。 今後、外部研修にも参加し知識の向上に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の際は必ず家族と十分時間をとり、不安や疑問点を尋ね説明を行い理解、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られたときや電話連絡の際など、ご意見やご希望及びご不満や不安なことなどをお聞きしたりして、行事に参加していただいで気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っています。 玄関に意見箱を設置し、ご希望や意見を気軽に投書できるようにしてある。 (外部評価) 家族の面会時には積極的に声をかけ意見や要望を聞き、遠方の方は手紙や電話で聞くようにしている。毎月、利用者の生活状況や献立表を送付し、玄関には意見箱を設置して意見や要望を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、職員会議を行い意見提案を聞き話し合う場を設けている。また、常日頃より意見や提案を気軽に話せるようにしている。 (外部評価) 月1回ユニットごとの職員会や合同での委員会を開催して意見を聞いている。職員会では研修報告や勉強会を行い自由に意見を出し合えるようにしている。出された意見の内容によって、管理者を通じて他ユニットにも報告している。今後はユニット毎の交換研修や社内での職員研修の提案を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 会社は4つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整いつつある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域での研修会の他、管理者の研修会を開始しました。良い影響が出始めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 現在の所ありません。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用開始する際事前訪問調査を行い、本人の思いや希望・不安に耳を傾け、話し合い不安除去に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用開始にあたり、家族の思いや希望、不安なことに耳を傾け、その場で一緒に援助の方針を話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを利用開始にあたり、本人、家族と十分に話し合いを持ち何が必要かを考えていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に暮らしているとの意識の下、一緒に行った作業や家事に対して感謝の言葉がけを忘れないようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の時や、月1回のお便り等で本人の状況等を伝えている。訪問・電話等をお願いし、家族との時間を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの理髪店に訪問してもらったり、友人宅を訪問したりして関係を継続してもらっている。 自宅でいた時利用していた訪問介護の、担当ヘルパーに訪問してもらったりしている。 (外部評価) 入所時に利用者や家族から情報を聞き取り、馴染みの美容師や友人、担当ヘルパーに訪問してもらっている。また、祭りや敬老会等の地域の行事に参加して、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者同士が良好な関係が築けるよう、声掛けを行い孤立しない環境を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に替わられた方に対しても、お手紙等や訪問していただいた時に現在の状況を聞かせていただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用し、本人の思いを把握するように努めている。また、スタッフミーティング等で本人の思いに気づいたことを話し合えるようにしている。	
			(外部評価) 日常会話の中から利用者の思いや希望を聞き取り、困難な場合は表情や動作の中から把握するよう努め、支援経過に記録し職員全員が共有している。一人ひとりの意向に沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に訪問調査を行い、センター方式を利用して本人だけでなく家族からも情報を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方を聞き取りだけでなく、実際の生活の中から把握し、本人の生活リズムを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 課題や目標を介護記録の中でも共有し、本人の生活がよりよくなるために定期的なモニタリングを行い担当者会議を行い計画書を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は管理者と計画担当者のみで作成している。毎日、計画に沿ったケアを実施し、支援経過に詳細に記録し全職員が確認している。3か月に1回、担当者会議を行い見直しを行っている。家族の要望等は事前に聞き取り計画に反映している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) その日の気づきや状態を、本人の介護記録に記録し、職員間で情報を共有し目標に向けて実践することで計画書の見直しにいかしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人の状態や環境、家族構成等により通院等を柔軟に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) まだまだ、地域交流の機会が少なくボランティアの訪問回数も少ないため今後の課題とし地域への働きかけを行って行きたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時に本人、家族と話し合い主治医は今までの医師 を希望すればその希望を優先し、かかりつけ医と同様 に連絡を密に取り状態を伝え適切な医療が受けれるよ うにしている。</p> <p>(外部評価) 月1回協力医の往診があり、緊急時の連携体制も整っ ている。かかりつけ医への通院は家族にお願いしてい るが、都合の悪い時は職員が同行している。看護師1 名が配置され日々の健康チェックや主治医との連携を 図りながら情報を共有している。整形外科や歯科の協 力医がおり安心して医療を受けることができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 入所者の変化を見逃さないよう職員は気をつけ、何か あれば看護師に報告相談し主治医と連絡を取るよう にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院先の相談員や主治医と連絡を取り、家族も交えて 情報交換を行い病院との関係を築いている。 また、退院後の状況についても相談員に報告してい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族との話し合いは状態を見て行い、情報は職員全体 で把握しているが見取りの指針がまだまだ十分でない ように思える。</p> <p>(外部評価) 看取り介護の指針や重度化に向けた方針を作成し、利 用者と家族の要望に応じて対応している。昨年、家族 の要望により、家族や主治医、職員で話し合いを繰り 返しながらか看取りを行った。</p>	<p>事業所の指針に沿った対応が行えるよう、今回の経験 を事業所全体で共有し話し合いを積み重ね、利用者や 家族が安心して、納得した最期を迎えられるよう、さ らなる取組みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に行うよう年間計画を立てて行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害に備え定期的に避難訓練を行い、地域の自主防災組織に加えていく方向で話し合いもできている。 (外部評価) 年2回火災を想定して消防署の指導のもと避難訓練を行っている。事業所前面が土砂災害区域となっており、町の話し合いや自主防災に参加し地域との協力体制を構築している。防災マニュアルの見直しと緊急連絡網を作成中である。	いつ起こるかわからない災害に対応できるよう消防署から指導のあった内容を全職員で話し合い、より実践的な訓練を行うよう望みたい。早急に全職員が参加して防災マニュアルや緊急連絡網を作成し、防災に対する意識向上が図られるような取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように職員全体で気をつけているがまだまだ不十分だとも思うこともある。 (外部評価) 日常の声かけや排泄、入浴等の介助において、職員同志で注意し合ってプライバシーを損ねない対応に努めている。今後もプライバシーを損ねない声かけや対応を勉強会に取り上げていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを言葉や態度で示していることを見逃さないようにし、自己決定できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入所者のその日の状態等により、個々のペースにあった生活のリズムで過ごして頂けるようを支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みを把握し、その人らしいおしゃれや身だしなみを大切にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の状態や気分を見ながら、個々の力量を見ながらできる事は声掛けして一緒に行っている。	
			(外部評価) 利用者からメニューの要望を聞き、管理者が献立を決めている。食材は業者より取り寄せ、季節の野菜は近くの産直市場へ利用者とはかかって購入する。月に数回、職員と一緒に外食に出かける等、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分量は必ず毎回チェックし1日に必要な食事量や水分量に気をつけている。また、本人の状態に合った食事形態を工夫し、食べる楽しみにも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人一人の状態に合った方法で口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを入所当初よりチェックし、本人の行きたいサインを見逃さないようにしてできるだけトイレ誘導し、トイレで排泄することの爽快感を味わってもらえるようにしている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをしながらトイレでの排泄ができるよう支援をしている。利用者の状況によりオムツやパッドを使用することもあるが、職員の取組みによりパットの汚れが少なくなった事例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の解消になる工夫を個々状態に合った方法（乳製品・牛乳・寝起きに水分摂取等）で行っており、日頃の食事にも食物繊維の多い食品を利用するなどして工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の好みの温度や時間を、本人の状態を見ながら出来るだけ希望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 夏期は週3回、冬季は週2回、午後に入浴をするようにしているが、利用者の希望に合わせていつでも入浴できるように準備している。入浴が苦手な利用者には、声かけ等工夫している。乾燥防止に木酢入浴剤を入れたり、しょうぶ湯やゆず湯等にするなど、楽しく会話をしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠時間に合った生活パターンを守り、睡眠が十分に取れるよう日中の過ごし方も工夫が必要と考えているがまだまだできていないことが多い。日中も本人が自分で休息が取れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関しては看護師に任せていることが多いが、入所時に疾病と合わせて薬に関する情報を職員間で共有し、変更等があった場合は、必ず口頭のみでなく文章にして申し送るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴や力を理解し、楽しみを見つけ、できることへの役割を見つけ毎日の生活に張り合いが出るようにしているがまだまだ十分とは言えない。また、作った作品等が皆に見えていただけるよう掲示している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人が、希望すれば状態に合った形で外出できる機会を作るようにしている。また、地域の祭りや文化祭など本人の希望を聞いて全員で行かないものは個々の希望を大切にしている。家族と食事やドライブに行かれることもある。	
			(外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、花見や外食、灯籠祭り等、気分転換や楽しみが持てるように積極的に出かけている。家族と一緒に出かける利用者や電動車いすで周囲を散歩したり、買い物や友人宅を訪問したり墓参りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合っご本人が金銭管理をされている方もいらっしゃるし、ホームのほうでお金を預かり買い物等外出時などに自由に使える機会も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば、家族や知人に自由に電話を掛けたり自分で掛けれない人は援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やトイレなど移動に邪魔なものは置かないようにしており、季節に応じ壁を飾るなどして季節感を大事にしている。	
			(外部評価) ホールには天窓があり、日当たりもよく利用者は居心地よく過ごすことができている。夏期はすだれ等で室温調節をし、冬期は加湿器を設置して乾燥を防止している。壁には季節の飾り物を掛ける等、日々穏やかに過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳スペース、玄関のベンチなど気のあった利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々の部屋は、自宅で慣れ親しんだものを落ち込まれており、家族が写真や季節のもの飾るなどして居心地よくしていただいている。	
			(外部評価) ベッドやダンス、エアコンが設置されている。冬期は加湿器を各部屋に置き、乾燥を防止して過ごしやすくしている。使い慣れた物や家族の持って来た物を飾り落ちて過ごすことができるよう居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の部屋の名札は廊下から見やすく、その人の視線の位置に入りやすいなど工夫している。トイレは、使用中かどうかわかるように使用していない時はドアを開けっ放しにするなど工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成24年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から1年が経過し、個々の能力も上がりが仕事に余裕が出来てきたことでいろんなところにも目が行くようになりきめ細かい介護が出来るようになってきている。
入所者との時間も上手に取れるようになり、交流の時間も増え入所者の個々の力を引き出す機会も増えてきます。 理念の下、笑顔があふれや笑い声が響くホームになってきています。
地域の方との交流の機会を、今年は夏祭りの招待と言う形でとりたくさんの方に来ていただき解っていただける機会になったと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた山間部に位置しており、季節を感じながら穏やかに過ごすことができている。リビングは日当たりがよく、季節に応じた工夫で快適に過ごす事ができ、利用者の憩いの場となっている。
職員は家庭的な雰囲気の中で自分らしく笑顔で過ごす事ができるように、温かいもう一つの家族となれるようにと、理念を掲げ支援に努めている。利用者が落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりと過ごすことができるよう日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 紅葉の里・おだ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏名 稲田 かおり

評価完了日 23年 12 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事務所内に理念を掲示し、毎日始業前に確認し理念に添ったケアを実践している。 また、ご家族や訪問者にも見ていただけるように玄関にも理念を掲示し事業所の取り組みを理解してもらっている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い作成した理念は、事務所や玄関に掲示して家族や来訪者も共有できるようにしている。職員は出勤時に各自で確認し、新任職員には研修で説明を行い実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 盆踊りやお祭りにも参加し神輿や獅子舞に来てもらっている。今年は夏祭りを実施し、地域のボランティアの方より踊りや歌を披露していただき、一緒に食事をし交流を図りました。クリーンデイの奉仕活動にも参加しました。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議や事業所の行事に参加してもらったり、月1回読み聞かせの会のボランティアの方に歌や紙芝居してもらっている。町全体の防災訓練や会議に参加したりクリーンデイにゴミ拾いを行う等、地域との交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域住民に理解を求める目標で内子グループホーム連絡協議会合同で認知症研修会を開催し、たくさんの方の方に参加していただきました。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催し推進委員のあたる意見や要望を改善課題としている。 地域の老人会に参加した方の様子や困った事等話が聞けた。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族や地域住民、町職員の参加を得て開催している。消防訓練や行事に合わせて行っている。事業所の状況報告や意見交換等を行っているが、行事以外での参加者が固定化されており積極的な意見交換までには至っていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者は事業所の現状を報告したり、運営やサービスにおいて生じる課題や疑問については、事業所で抱え込まず相談しながら協力関係を築くようにしている。	
			(外部評価) 町の担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっている。また、町の防災訓練や会議にも参加するなど良好な関係が構築されており、事業所の現状を報告したり、困難事例を相談することができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部で研修を受講した職員より、研修報告、勉強会を行い職員全体が身体こそくの行為を理解している。自ら外出される入所者には見守り所在の確認を行い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 年1回、外部研修に各ユニットから1名参加し、事業所内で伝達研修を行っており、全職員が正しく理解し実践している。外出を希望する利用者には見守りを行い、時には一緒に歩き、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加したり、社内での勉強会を行い正しく理解し虐待のないケアを行っている。日常的な介護サービスでの適切な対応のあり方を折に触れ話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開いたり、研修にも参加して学んでいる。現在成年後見制度を利用されている方はいないが、勉強会を持っていつでも対応できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約においては事業所の取り組みや介護サービスに対して状況考え方などを説明している。その際、不安に思っていることをお聞きし理解、納得をしていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族は毎月のお便りや面会時に意見や要望を聞くようにしている。気軽に意見や苦情を出していただけるように、玄関に意見箱を設置している。 (外部評価) 家族の面会時には積極的に声をかけ意見や要望を聞き、遠方の方は手紙や電話で聞くようにしている。毎月、利用者の生活状況や献立表を送付し、玄関には意見箱を設置して意見や要望を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会等で意見や提案、又気づいたことを発言できるようにしている。管理者は職員の意見や要望を聞き、良いものは運営に反映している。</p> <p>(外部評価) 月1回ユニットごとの職員会や合同での委員会を開催して意見を聞いている。職員会では研修報告や勉強会を行い自由に意見を出し合えるようにしている。出された意見の内容によって、管理者を通じて他ユニットにも報告している。今後はユニット毎の交換研修や社内での職員研修の提案を検討している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 会社は4つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整いつつある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 地域での研修会の他、管理者の研修会を開始しました。良い影響が出始めています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 現在の所ありません。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 契約前において事前調査で本人の住まいの状況や困っていることなど十分に把握し、また事業所にも見学に来ていただき十分に納得して入居していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前にご家族の思いや考え家族の状況を把握すると共に、家族のニーズを総合的に把握しながら詳しくアセスメントが出来るよう家族にも協力してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に入居のみを前提にするのではなく担当のケアマネジャー及びサービス担当者等と話し合いながら、どのようなサービスが適しているか見極め対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人一人の好きなことや嫌いなことを記録し意向を確認しながら日常生活を送れるように工夫している。また、一人一人の不安や苦しみは共感し分かち合える関係作りを行っている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会行事での情報交換を行い家族の意向や考えに注意を払いながら共に本人を支えていく姿勢をとっている。毎月のお便りには、日頃の生活の出来事や写真も印刷して伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全ての方ではないが以前からの理容師さんが訪問して散髪をしてもらったり、地域の行事、敬老会や祭りに行ったりして昔馴染みの友人や近隣の方と交流が持てるようにしている。手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。 (外部評価) 入所時に利用者や家族から情報を聞き取り、馴染みの美容師や友人、担当ヘルパーに訪問してもらっている。また、祭りや敬老会等の地域の行事に参加して、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係や親密度を把握し、毎日笑顔で過ごしていただけるよう職員が仲介しています。 入居者同士の関係が円滑になり、またそれぞれの個性が発揮できるように支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も継続してその家族さんに来所していただくよう声掛けを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者一人一人の本当はどのように暮らしたいのか、言葉にしにくい思いや考えを汲み取り把握するように努めている。また意思疎通の図りにくい方においては、表情や動作から意向を汲み取ったり家族や関係者からも協力を得ながら助めています。 (外部評価) 日常会話の中から利用者の思いや希望を聞き取り、困難な場合は表情や動作の中から把握するよう努め、支援経過に記録し職員全員が共有している。一人ひとりの意向に沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査等で情報を収集し今までの暮らしぶりを把握するように努めている。また、暮らしを共にする中で気づきや思考についての情報は少しずつ積み重ねておいて明らかになることも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し日々の生活の中での出来事や出来ないこと等観察しながら本人の可能性を決め付けずに柔軟な視点で把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎日の介護の積み重ねと本人、家族の思いや意向、気づきやアイデア等を反映し介護計画を作成している。 見直しは3ヶ月ごとに行っており状態に変化が合った場合は随時行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は管理者と計画担当者のみで作成している。毎日、計画に沿ったケアを実施し、支援経過に詳細に記録し全職員が確認している。3か月に1回、担当者会議を行い見直しを行っている。家族の要望等は事前に聞き取り計画に反映している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の介護記録により、その日勤務していなかった職員にも解るよう毎日の状況等情報を共有できるようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて受診や送迎など柔軟な支援を行っている。家族と受診結果の状況報告をして情報を共有している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 入所者が穏やかな暮らしが送れるよう地域の民生員、ボランティアの協力を得て交流を図っている。毎月地域のボランティアの方が来所して紙芝居等読み聞かせの会の方が来ていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人ご家族の希望するかかりつけの医療機関にて継 続した治療が受けれるようご家族と相談しながら受診 介助をしたり、また家族が付き添ったりして通院治療 を行っている。 (外部評価) 月1回協力医の往診があり、緊急時の連携体制も整っ ている。かかりつけ医への通院は家族にお願いしてい るが、都合の悪い時は職員が同行している。看護師1 名が配置され日々の健康チェックや主治医との連携を 図りながら情報を共有している。整形外科や歯科の協 力医がおり安心して医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内に看護師がおり利用者の日常的な身体状況や変 化を報告しすぐに適切な受診が受けれるように努めて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期に退院できるよう、病院関係者との情報を行い、 退院前には管理者、責任者、看護師での病院関係者と 話し合いをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 見取り対応マニュアル、医療連携体制について説明し 同意を得ている。病状の変化を気軽に報告、相談でき る体制が確立されている。 (外部評価) 看取り介護の指針や重度化に向けた方針を作成し、利 用者と家族の要望に応じて対応している。昨年、家族 の要望により、家族や主治医、職員で話し合いを繰り 返しながら看取りを行った。	事業所の指針に沿った対応が行えるよう、今回の経験 を事業所全体で共有し話し合いを積み重ね、利用者や 家族が安心して、納得した最期を迎えられるよう、さ らなる取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域の消防署の協力を得て定期的に救命救急の訓練を受け実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防隊の協力により年2回避難訓練を行い、今年は夜間想定や前回消防より指摘を受けたこと、それを元に防災マニュアルを作成し訓練を行っている。地区の防災訓練にも参加し、近隣のボランティアの方も参加して訓練を行った。 (外部評価) 年2回火災を想定して消防署の指導のもと避難訓練を行っている。事業所前面が土砂災害区域となっており、町の話し合いや自主防災に参加し地域との協力体制を構築している。防災マニュアルの見直しと緊急連絡網を作成中である。	いつ起こるかわからない災害に対応できるよう消防署から指導のあった内容を全職員で話し合い、より実践的な訓練を行うよう望みたい。早急に全職員が参加して防災マニュアルや緊急連絡網を作成し、防災に対する意識向上が図られるような取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者の人格や尊厳やプライバシーについて、研修を受け日常の介護時の声掛けに十分に注意を払い、排泄や入浴など介助においては、自尊心を傷つけないように注意を払いながら介助を行っている。 (外部評価) 日常の声かけや排泄、入浴等の介助において、職員同志で注意し合ってプライバシーを損ねない対応に努めている。今後もプライバシーを損ねない声かけや対応を勉強会に取り上げていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人の希望や好みを把握し、表情や反応を感じ取りながら日常生活の中で自己決定ができるような声掛け支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりのペースや体調に合わせてその日によって起床時間、食事の時間等をずらしたり一人一人のペースに合わせて過ごして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて朝の着替えや化粧品の利用などを見守り不自由なところはさりげなく声掛けしなおして頂いたり、また毛染めによるおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節ごとの旬の食材を使って季節感や食べ慣れた料理などで話題を提供したり楽しく食事をする工夫をしている。月2回は、行事などで利用者と職員が共に食卓を囲んで楽しい雰囲気ですら食事を行ったり、外食の機会を持っている。 (外部評価) 利用者からメニューの要望を聞き、管理者が献立を決めている。食材は業者より取り寄せ、季節の野菜は近くの産直市場へ利用者と出かけて購入する。月に数回、職員と一緒に外食に出かける等、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量を観察記録している。水分量食事量の少ない方はゼリー等にしてたり形態に工夫して美味しく食べていただくよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けしたり誘導している。十分でない所は介助をしている。また個人にあったさまざまなブラシを準備している。義歯は夜間にポリドント消毒して清潔に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録にて把握している。尿意のない人にはされげなく声掛け誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをしながらトイレでの排泄ができるよう支援をしている。利用者の状況によりオムツやパッドを使用することもあるが、職員の取組みによりパットの汚れが少なくなった事例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維の多い食材を献立に取り入れたり、排便の状況に合わせてセンナ茶の濃度を変えて飲んでもらって個々に応じた取り組みをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日、時間を確認し、できる限りご本人の意向を大切にしてお入浴していただいている。入浴時は安全で本人の力が発揮できるような誘導に心がけ入浴時の負担感や羞恥心が最小限で入浴しているよう支援している。	
			(外部評価) 夏期は週3回、冬季は週2回、午後に入浴をするようにしているが、利用者の希望に合わせていつでも入浴できるように準備している。入浴が苦手な利用者には、声かけ等工夫している。乾燥防止に木酢入浴剤を入れたり、しょうぶ湯やゆず湯等にするなど、楽しく会話をしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を一人ひとり把握し、日中は散歩や作業など取り入れ活動量を増やし夜間安眠できるよう促している。その日の体調や表情から疲れ具合をみて、休息していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の内服状況がわかるよう説明書を個別でファイルして共有している。 また、内服薬の変更時は申し送りノートにて共有できるようにしている。 内服治療に対する説明を勉強会を開き看護師より説明を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の調理や洗濯物干し、また歩けない方には洗濯物たたみや編み物等々一人一人得意なことをしていただいている。男性には買い物時の荷物持ちをしていただいたりと色々工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望にそって出来るだけ散歩や買い物、日光浴など行い戸外にて気分転換を図り生活に楽しみが持てるよう支援にしている。季節ごとの花や紅葉見物に出かけたりして気分転換を図り生活に楽しみを持っていただいている。	
			(外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、花見や外食、灯籠祭り等、気分転換や楽しみが持てるように積極的に出かけている。家族と一緒に出かける利用者や電動車いすで周囲を散歩したり、買い物や友人宅を訪問したり墓参りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向によりお金を所持している方もいる。また、家族よりお金を預かっている方も買い物時一緒に準備してお金を支払いができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話を掛けたいと訴えた際には対応し、手紙や年賀状のやり取りもできるような支援している。 自らかけれない方には電話をかける代行をしたり、個人の有する能力に応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室、ホールに湿度・温度計を設置、冬場は加湿器等で居心地よく過ごせるよう配慮している。ホールの天窓の下は日当たりもよく冬場は入所者さんの憩いの場となっている。夏場は日差しが強いですだれなどで工夫している。	
			(外部評価) ホールには天窓があり、日当たりもよく利用者は居心地よく過ごすことができている。夏期はすだれ等で室温調節をし、冬期は加湿器を設置して乾燥を防止している。壁には季節の飾り物を掛ける等、日々穏やかに過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの窓際は日当たりがよく思い思い日向ぼっこや気の合った入所者さん同士が会話を楽しまれたり一人ひとりの居場所ができている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使い慣れている布団や家具などを持ってきて頂き居心地の良い居場所作り心がけている。また、思い出深い出来事の写真やそれぞれの馴染みのもので落ち着いて過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) ベッドやダンス、エアコンが設置されている。冬期は加湿器を各部屋に置き、乾燥を防止して過ごしやすくしている。使い慣れた物や家族の持って来た物を飾り落ち着いて過ごすことができるよう居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口に名札を付けまた目の不自由な方や字の読めない方の居室には、飾りや目印をつけるなどの工夫をしている。	